

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1(小・中)

学校名	佐賀市立富士中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各項目において、具体的な取り組みがしっかり計画され、評価も十分なされている。具体的な取り組みがはつきりしている。（学校運営協議会より） 授業に関する共通理解は浸透し、生徒からの評価も高い。今後はより個に応じたきめ細かな指導、授業づくりを通しての学力向上を図る。 生徒指導について、生徒の変化に気づき、細やかな対応ができてきた。今後は報告・連絡・相談をさらに密にして、早期発見・早期対応に努める。 コロナ禍で活動が縮小されたが、富士校ならではの一貫校の形を模索し、学校運営協議会の助言を得ながら地域と連携した学校作りを目指す。
2 学校教育目標	<p>地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成</p> <p>①一人ひとりに基礎学力を身に付けさせ、思考力・判断力を高める。</p> <p>②「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自他の命を大切に、郷土を愛する心豊かな生徒を育てる。</p> <p>③心身ともに健やかでたくましい生徒を育てる。地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成</p>
3 本年度の重点目標	<p>①「五感教育」の推進一わかる授業づくりと家庭学習への取り組み</p> <p>②「生徒理解」・「不登校対策」の推進一生徒を中心に据えた心の絆&居場所づくり</p> <p>③3連携「小中連携・家庭連携・地域連携」の推進一コミュニティ・スクールとしての絆づくり</p> <p>④教職員の資質向上と働き方改革を受けての取組の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目		重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	A	「めあて・まとめ・振り返り」の継続した記録 ・朝読書を活用した一人年間70冊以上の読書の推進	「めあて・まとめ・振り返り」の記録にはほぼ取り組めた。職員の取組も100%だった。 ・図書貸出冊数の年間目標を達成した。 ・朝読書を継続して実施し、習慣化を図った。	A	・読書は将来につながる。是非継続してほしい。	
	○わかる授業づくりと家庭学習の定着・充実	○授業が「分かりやすい」の生徒回答率が90%以上、自主学習ノートの全員提出及び月曜テストの合格率85%以上	B	・基礎・基本の定着の徹底 ・分析に基づく弱点の解消推進に向けた身に付ける資質能力の焦点化 ・「家庭学習の手引き」活用の徹底	・職員の「分かりやすい授業づくり」の達成度は100%、授業が「分かりやすい」と回答した生徒は94%だった。 ・朝テストの合格率は目標に達成しなかった。 ・自主学習ノートの取扱いや家庭学習の取り組みについては、今後も継続的に指導を行う必要がある。	B	・一人一人の学力を丁寧に分析し、対応されている。 ・家庭学習の習慣については、保護者と一体となって取り組む必要がある。 ・朝テストは継続してほしい。	
	○校内研究の充実	○研究テーマに沿った研究発表会での授業公開	A	・授業の流れとワークシートの共有、授業作りにおけるサポートチームの協力等、実践的で協力的な体制の構築 ・ひとり一回の校内における授業公開の実践	・全員が一人一授業の公開を行った。 ・授業公開に先立って、チーム会を立ち上げ、意見交換を行いながら授業づくりを行った。 ・研究発表会では参観者から好評を得た。	A	・研究発表に参加したが、分かりやすい授業であった。 ・教え合いの学習に取り組んではどうだろうか。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校が「安心・楽しい」の生徒回答率が95%以上 ○ボランティア活動等の生徒会活動の活性化による参加率の前年度アップ	A	・OUを活用した受容的な学級集団作り ・パワーアッププラン等を活用した主体的な生徒会活動の促進 ・ボランティア活動等の生徒会活動の活性化 ・職員全員で取り組む道徳授業の推進	・各学年でOUアンケートを分析し、学級づくりに生かした。学校が「安全・楽しい」と回答した生徒は93%だった。 ・パワーアッププランやボランティア活動に全校生徒で取り組んだ。 ・道徳授業は、各学年で担任・副担任が協力して実践した。	A	・「学校が楽しい」ことが一番大切である。 ・ぜひ富士町の魅力をたくさん発信してほしい。町づくりにもつながる。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、サポート相談員の状況に応じた活用と連携した相談体制の充実	A	・定期の生活アンケートを通じて的確な状況把握と即時対応 ・定期的な連絡会での情報共有と組織的な取組の推進	・生活アンケートや生徒指導朝会での人権講話を実施し、「生徒の人権意識の向上に努めた」と回答した職員は90%だった。 ・担任、教育相談担当、SC、SSW、サポート相談員と密に情報共有を行い、チームで対応できた。「報告・連絡・相談を迅速に行った」と回答した職員は100%だった。	A	・先生方の目、見抜く力を付けてほしい。 ・生活アンケートや人権講話の取組はよいと思う。	
	◎志を高める教育	○「富士町が好き」、「富士町を自慢できる」の生徒回答率100%	A	・地域の教育資源、人材を積極的に活用した体験活動を通じた「五感教育」の推進 ・ゲストティーチャー招聘によりふるさと富士を大事にする生徒の育成	・地域学習では各学年でテーマを設定し、富士町の伝統文化等について、現地を調べ学習を行った。富士町の魅力を発信する動画を制作した。 ・地域からゲストティーチャーを招聘し、富士町の魅力を考える活動を行った。全生徒が「富士町のよさに気付いた」と回答した。	A	・少人数なので、ここでしかできない体験や取組を今後も期待したい。 ・五感教育はよいと思う。	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ○全身体活動(含社会体育・文化部)に所属、放課後等の活動の適切な促進 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒100%	A	・「早寝、早起き、朝ごはん運動」を家庭・地域と共に推進し、高い朝食喫食率を維持 ・週2回の部活動休みの設定と健康維持管理能力の向上の促進 ・保健日より、給食だよりの定期発行による意識の啓発推進	・部活動の週休2日を設定し、健康維持の促進ができた。 ・保健だよりの定期的な発行や体験型の掲示物を通して、生徒自身が健康維持管理に努めるよう啓発した。 ・家庭科で食事の役割について取り組んだ。また、生活習慣アンケートを実施して、食事や睡眠の大切さを考えるような活動を行った結果、86%の生徒が「規則正しい生活を心がけている」と回答した。 ・定期的に給食だよりを発行することで、家庭でもその内容が話題にのぼるなど、食への関心を高めることができた。「健康に食事は大切である」と回答した生徒は100%だった。	A	・家庭での「早寝・早起き」の習慣をしっかりとつけないといけない。 ・身体をきたえることが、高齢者になったときに役立つと思う。 ・中学生の頃の体づくりは将来のためにも、特に大事だと思う。	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○時間を意識した仕事の効率化	A	・定時退勤日(毎週水曜日)実施の徹底 ・行事、指導の各手引きの次年度を見通した活用の徹底	・全職員の時間外勤務時間の平均は32.4時間で、昨年度より1.5時間減だった。 ・部活動の休養日の週2日以上は設定は100%。 ・定時退勤日の習慣化がほぼ達成できた。	A	・先生方の時間外勤務が増えないようにしていただきたい。 ・現在取り組まれていることは継続してほしい。	
			B	・次年度の業務改善を視野に入れた、データや作成した資料等の整理保存の徹底 ・「サーバー内のデータを分かりやすく整理保存した」と回答する職員の割合85%以上	・学校評価職員アンケートで、「サーバー内のデータを分かりやすく整理保存した」と回答する職員の割合80%だった。 ・業務改善の視点を取り入れながら進めている職員は90%なので、業務効率化の観点から来年度もデータの整理保存は実行していく。	A	・大変なことかもしれないが、少しでも効率化を図っていただきたい。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言	
○小中連携	○9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の研究推進	○小中連携の全教職員による相互授業参観及び授業研究会(年5回)	A	・小中連携部との協働による乗り入れ授業、交流活動、授業参観の計画的な実施 ・小中合同協議会の内容の充実、効果的な合同研修会の計画実施	・計画通り、乗り入れ授業や交流学習を実施した。 ・授業研究会には、毎月、小中の職員が互いに参加できた。 ・小中合同協議会では、子どもの学習面や生活面について情報交換を行った。「小中合同の研修会は有意義だった」と回答した職員は100%だった。	A	・ギャップのないつながりを願いたい。 ・小学部の子どもが中学部の生徒にあこがれるような取組を期待したい。	
○コミュニティスクール	○学校運営委員会の充実	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100% ○学校HPを活用するようになったという保護者の割合90%以上	A	・学校便り、HP、学校情報メールの活用及び学校運営協議会を核とした連携の強化 ・保護者、地域への積極的な情報発信・受信の推進	・学校情報メール加入率は100%だった。 ・定期的、継続的な情報発信を行い、保護者からの認知率92%の評価を得た。 ・学校運営協議会では情報交換ができ、学校行事へもご参加いただいた。また、委員の方に地域学習の講師としてご指導いただき、コロナ後の連携ができてきている。	A	・HPの更新はぜひ願いたい。 ・来年度も学校と地域が連携しながら、富士校の子どもたちがよりよく育つようにしていきたい。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 各項目において、具体的にしっかりと取り組まれている。学校が努力されていることが分かる。（学校運営協議会より） 授業に関しては生徒からの評価も高い。今後もより個に応じたきめ細かな指導、授業づくりを通しての学力向上を図る。家庭学習の強化について、家庭との連携の在り方を考える必要がある。 生徒指導については、細やかな対応ができてきた。今後も報告・連絡・相談を密にして、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 富士校ならではの分離型一貫校の型をつくり、学校運営協議会の助言を得ながら地域と連携した学校作りを目指す。